2023年度　アゴラセミナーⅠb

2023年12月9日(土)に実施

「和歌山FW～歴史的街並みを有する地域における津波防災とまちづくり～」

キーワード：南海トラフ地震, 津波避難困難地域, 歴史的景観保全推進区域

現代システム科学域　生田　英輔
都市科学・防災研究センター　杉山　正晃

はじめに

南海トラフ地震は30年以内に80%の確率で発生するとされ、短時間で津波が到達する和歌山県各地では大阪以上に津波対策が進められている。和歌山県御坊市の寺内町は本願寺日高別院を中心に形成された門前町であり、歴史的な建物が多く残っている。しかしながら、歴史的な街並みと近代的な防災施設は景観的に調和しにくいという課題もある。御坊市職員の案内のもとでまち歩きを実施し、まちの課題や資源を探し、解決策や活用方法を議論した。また、「稲むらの火」の伝承で知られる濱口梧陵記念館と広村堤防を見学した。

① 新町地区津波避難タワー

新町地区津波避難タワーからまち歩きがスタート。2019年、御坊市内3基目となるこのタワーが完成したことで、御坊市内の南海トラフ巨大地震津波避難困難地域は解消された。

② 堀河屋野村

江戸時代の木造平屋造りの建物。本瓦の大屋根が覆い座敷窓を囲うベンガラの格子が長い伝統を伝えている。

③ 日の出紡績のレンガ塀

創業は大正2年(1913)日高地方の産業革命のさきがけとなった。今は、200mのレンガ塀が残るのみ。

④ 水害之碑

昭和28年(1953)7月18日の600mmに及ぶ豪雨により日高川が氾濫した。被害は御坊市全域で、死者26名行方不明100名、重軽傷約3,000名、推定床上浸水4,000戸、内流失365戸であり、復旧には数年を要した。自然に対する警戒心を忘れないように、碑を建てて後世に言い伝える。

＜出会った人＞
- 御坊市職員
- 寺内町会館館長
- 御坊市自主防災組織連絡協議会会長
- 稲むらの火の館館長

⑤ 日高別院

文禄4年(1595)浅野家重臣佐竹伊賀守の尽力によって薗村と島村の荒地四町四方を得て堂宇を建立したのが始まり。文政８年(1825)に建立された本堂を中心に鐘楼・太鼓楼・山門・薬医門が立ち並び、真宗寺院としては紀南最大の規模をもつ。

⑥ 天性寺

当時の天性寺住職が安政地震津波を記録した板書『大地震津波之事』が現存している。

⑦ 御坊市役所(新庁舎)

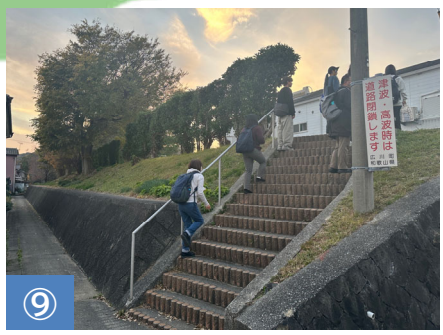
2023年10月31日、新庁舎が完成。老朽化した前庁舎は耐震性に課題があり、市は高台移転も検討したが、利便性の高い高台の土地がなく、市中心部には当時、津波避難ビルがなかったため、浸水の恐れがあるエリアでの建て替えを選択した。

⑧ 御坊市における自主防災の取り組み

御坊市自主防災組織連絡協議会 酒本和彦会長より講和をいただき、御坊市における自主防災の取り組みを学んだ。その後、まち歩きを振り返りまちの課題の解決策や資源の活用方法を考えるワークショップを実施した。

⑨ 広村堤防

安政南海地震(1854)の津波を受け、濱口梧陵が中心となって築いた長さ約600m、高さ約5mの堤防。濱口梧陵は莫大な私財を投じ、多くの村人を築堤工事に雇用することで、津波の被害で荒廃した村から人々が離散するのを食い止めた。昭和南海地震(1946)では、高さ4-5mの大津波が広村を襲ったが、堤防が村の居住地区の大部分を津波から守った。



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

2023年度　アゴラセミナーⅠb

2024年1月20日(土)に実施

「神戸フィールドワーク～阪神・淡路大震災復興の現場を歩く～」

キーワード：阪神・淡路大震災, 震災復興, 市街地再開発事業, 土地区画整理事業

現代システム科学域　生田　英輔
都市科学・防災研究センター　杉山　正晃

はじめに

1995年1月17日の阪神・淡路大震災で多大な被害を受けた兵庫県神戸市でフィールドワークを実施した。震災発生から29年、復興は順調に進んできたようにも見えるが、産業・商業の復興や住宅問題等、未だ解決できていない課題も多い。そこで、都市計画の視点から震災復興における市街地再開発事業や土地区画整理事業の現場を歩き、災害からの復興を通じた地域再生を学ぶフィールドワークを実施した。当時の行政担当者とともに歩き、当時の復興再開発事業を今一度振り返る。

① 鷹取地区

JR鷹取駅からまち歩きがスタート。駅北側は震災後に工場が移転し、高層マンションや商業施設が立ち並んでいる。駅南側は震災の時には大規模な火災があった為、震災後に建てられた住宅が立ち並んでいる。区画整理で道路拡幅等が行われたため、震災前2m程であった道路が4m以上に拡張されていた。

①

② 新長田地区

長田区は神戸市内でもとくに大きな被害が出た地域だった。神戸市は、震災のわずか2か月後に新長田駅の南側20haの復興に向けた都市計画をまとめた。ビルが立ち並ぶ駅前の再開発エリア。土曜の昼間ということもあり、アーケードの地上階は人通りも多かったが、2階は活気がなく空き店舗が目立つ。
少し歩いた所にある丸五市場は、震災時の火災や倒壊を免れたそうで、昔の市場の情緒溢れる雰囲気が魅力的である一方で、耐震性や住戸の密集による延焼への対策が急務であるように感じられた。復興のシンボルとして駅前に巨大な鉄人28号が立っている。

②

復興のシンボル鉄人28号

④

＜出会った人＞
- 神戸防災技術者の会
- 水道筋商店街・灘中央市場の方
- 神戸大学教員
- 神戸学院大学教員
- 六甲道地区の住民の方

③ 水道筋商店街・灘中央市場

水道筋商店街では、若手が中心となって市場や商店街の活性化に取り組んでいた。火災に弱い木造の市場では、空き店舗の跡地を防災空地として延焼対策に充てながら、コミュニティづくりにも活用していた。

市場内の防災空地

④ 六甲道地区

JR六甲道駅の北側と南側を見学した。駅北側は低層住宅が並び落ち着いた印象だった。所々に大小の公園が配置されており、平時は住民の憩いの場である一方で、災害発生時には避難場所となることを知った。
駅南側は集合住宅、商業施設、公園があり、その計画を担当された方からレクチャーを受けた。計画にあたっては多くの住民と会合を持ち、計画が策定された。

⑤ 復興まちづくりのレクチャー

六甲道地区の復興まちづくりについて住民の方などからレクチャーを受けた。六甲道駅南地区の再開発事業は10年で完了したという迅速さが評価できる一方で、当初は住民の意見がないがしろにされ、行政主体で行われていたことなど課題が明らかとなった。

高層階より六甲アイランド方面を望む

＜訪れた場所＞
- 鷹取地区
- 新長田地区
- 水道筋商店街・灘中央市場
- 六甲道地区

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University